

紫野

MURASAKINO

2025
vol. 17



巻頭
特集

国スポ・障スポ 参加レポート

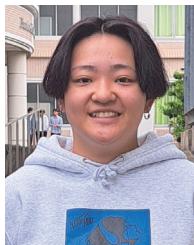
特集

第79回 国民スポーツ大会 第24回 全国障害者スポーツ大会 参加レポート

2025年の滋賀県の一大イベントである、国民スポーツ大会(国スポ)全国障害者スポーツ大会(障スポ)が9~10月に滋賀県内で開催されました。本学からは、ボクシング競技(国スポ)、グランドソフトボール(障スポ)、ボウリング(障スポ)、閉会式(障スポ)に、のべ100名を超える学生がボランティアスタッフとして参加し運営の補助にあたりました。参加学生の声をお届けします。

9月29日(月)~10月1日(水)

国民スポーツ大会



岡澤 茜美
スポ教 4年
2022年3月
彦根翔西館高校卒

陸上部顧問の先生から声をかけていただき参加しました。3日間、リング横で選手紹介などのアナウンス(司会)業務を担当しました。大役でしたが落ち着いて出来たと思います。ボクシングは好きでテレビで見ますが、会場で見る実際の競技は、音や動きに迫力があり圧倒されました。貴重な経験ができました。



堀田 綾菜
スポ教 4年
2022年3月
京都西山高校卒

3日間合計で20試合以上のタイマー係を担当しました。1試合は2ラウンド制で、1ラウンド2~3分の限られた時間ですが、パンチがヒットし立ち上がりがれず担架で運ばれる場面も何度かあり印象的でした。地元を代表する選手達の必死な姿に、思わず見入ってしまうこともあります。



会場の様子(ビブスを来ているのがボランティアスタッフ)



グローピング係の業務の様子



山田 優翔
子ども2年
2024年3月
(岐阜県) 池田高校卒

競技前後にグローブやヘッドガードの用具を点検し、選手が履いているリングシューズの紐をテーピングテープでまとめるグローピングの業務を担当しました。試合前の選手とセコンドが直前に立ち寄る場所で、独特の緊張感がありました。何十組と対応しましたが、自信のある選手ほど試合に勝利していたのが印象的でした。



小西 秀宜
子ども1年
2025年3月
能登川高校卒

出身高校にボクシング部があり、同級生が何回も賞状をもらっていましたが、実際の競技は見たことが無く興味本位でボランティアに応募しました。記録回収担当でスコア表を本部に提出する係でした。リングサイドに座させていただき、競技に詳しい方の解説を聞く機会もあるなど、充実した時間になりました。

10月24日（金）～27日（月）

全国障害者スポーツ大会



（左上）ボランティア学内説明 （左下）グラウンドソフトボールの一場面 （中）活動の様子



清水 稲太

子ども 3年
2023年3月
滋賀学園高校卒

滅多にない機会だと思い、国スポ・障スポの両方に参加しました。障スポでは練習日からグラウンドソフトボール福岡県チームに帯同し、練習時の球拾いや移動のサポートなどを担当しました。全盲や弱視の方を対象とした種目で、転がってくるボールを打つ競技ですが、フェンスオーバーもあるなど、参加者の技術の高さに驚きました。楽しく活動できました。



中西 ひかり

子ども 1年
2025年3月
水口東高校卒

ボランティア活動に興味があり、担任の先生の勧めもあって、グラウンドソフトボール、ボーリングの両競技と閉会式、全4日間に参加し、荷物運搬などの選手補助業務とコミュニケーション係を担当しました。

選手やスタッフの方々との交流を通じて、自分自身の意識、考え方などを見つめなおす機会となりました。

9月6日（土）

デモンストレーションスポーツ 『ネットでポンポイ』

国スポにおける正式競技、特別競技、公開競技以外の競技で、県民誰もが参加でき、生涯を通してスポーツに親しむきっかけ作りや交流の輪を広げることなどを目的に、デモンストレーションスポーツが開催されました。

ネットでポンポイは、子どもから高齢者まで幅広い年齢層が気軽に楽しめる東近江市発祥のニュースポーツで、バレーボールに似たスポーツで専用のネットを使います。9月6日（土）に行われた大会には、ジュニア、一般をあわせて50チーム以上、270名の参加がありました。

本学からはスポーツ教育学科の学生・卒業生2チームが出場し、大会を盛り上げました。



出場メンバーとプレーの様子



ネットでポンポイは、地域とのつながりだけではなく、大学の先輩や後輩とのつながりも生まれ、交流の輪が広がっていくことを実感しています。



広報「ひがしおうみ」9月号に掲載

8月11日（月・祝）

すまいる・あくしょんフェスタ 2025

子どもたちのわくわく感性を育む体験型フェスタ！「すまいる・あくしょんフェスタ 2025」が8月11日（月・祝）守山市民ホールで開催されました。子ども達の笑顔を増やすため、行政・企業・学校・地域などの登録団体から40を超えるイベントが実施。本学からは子ども学科の中井ゼミ・内藤ゼミが参加しました。

すまいる・あくしょんとは？

「すまいる・あくしょん」とは滋賀県の小・中学生、高校生、大学生等31,320人の子どもたちの声（アンケート）をもとに作成した子どもの笑顔を増やすための滋賀発の新しい行動様式です。ウィズコロナ、ポストコロナを見据えて、子どもが自分自身のために行動できること【こどもあくしょん】と、子どもが必要としていることに対して大人が行動すること【おとなあくしょん】の2つの視点があります。 詳細は、ホームページ (<https://smile-action.jp/>) をご参照ください。

中井ゼミ 学生と楽しむお話の世界



日頃からゼミで取り組んでいる絵本の読み聞かせやお話の実践、乳幼児に人気のある絵本の読み聞かせや、エプロンシアター・手ぶくろ人形、楽しい劇をしました。また、手遊びや折り紙なども幼児と共に演じたり、作ったりもする参加型のイベントを行いました。



イベントの時間は、子ども達が絶えずコーナーを訪れ、学生達は休む間もなく大忙し。260名を超える子ども達に楽しいひと時を提供しました。

保護者の方の中には、「びわこ学院大学」の名前を初めて知ったという方もおられ、大学のPRにも成功！中井ゼミの3年生・4年生は初めての参加でしたが、多くの子ども達の笑顔に触れ、充実した1日になりました。

内藤ゼミ いのちの安全教育



BGU若鮎隊が、いのちの安全教育(STOP性暴力・性犯罪)に関して寸劇や紙芝居、カルタで子ども達にわかりやすく自分を守る方法を教える教育ブースを開設しました。



BGU若鮎隊は10年以上の歴史があり、昨年の8月には3年生(現4年生)が滋賀県知事の前でプレゼンテーションも行いました。「すまいる・あくしょん」には昨年も参加しましたが、今回のイベントには1年生が参加。120名を超える親子さんとのふれ合いを通じて、学生達も大いに勉強させていただきました。

10月12日（日）

キッズトライアル in 東近江

2025年10月12日（日）、近江鉄道のイベント『ガチャフェス 2025』にあわせ、近江鉄道大学前駅周辺、ならびに大学校舎では「キッズトライアル in 東近江」が開催されました。初開催のイベントでしたが、大勢の方にご来場いただき、賑やかなイベントになりました。当日の様子をお伝えします。



びわ学「つくる発見！たのしみ隊」



子ども学科 箱家ゼミに所属する学生が中心となって、身近な素材を使った科学実験を行いました。今回のテーマは「つかめる水」。スプーンでくった透明の液体が、一瞬のうちにつかめる水に変わるという科学実験でした。子どもたちからは「さわると柔らかくてとても気持ちいい」「ブニョブニョしておもしろい」、保護者からは「不思議、どうして？」と驚いたり楽しんでいた姿が見られました。

プールスポーツ（ペタンク）をしてみよう！



授業のなかでペタンクを経験した短大の学生とスポーツ教育学科吉見教授が中心となって実施しました。ペタンクはボールを目標球に近づけたり、当たりするアクティビティで世界で最も古い球技の一つと言われています。普段なかなか手にすることのできない鉄球を使った体験を企画したところ、400名を超える方が来場され、夢中になって楽しそうに取り組んでおられる姿が印象的でした。

しがのおしごとすかん滋賀県 『こどな BASE』事業

お仕事クイズやブースでの体験を通じて、滋賀県で活躍する企業の魅力を子どもたちに伝えるイベントです。東近江市内を中心に4社が参加してくださいました。プログラムの都合上、人数を制限しての実施でしたが、午前・午後共に開始すぐに定員が埋まる大人気のプログラムでした。

※本事業は滋賀県との包括連携協定（p14参照）に伴う事業の一環です。



和太鼓部演奏

10年以上の歴史を持つ和太鼓部「雷音（らいおん）」が、イベントを盛り上げてくれました。あいにくの雨で午前中は体育館での演奏になりましたが、午後は玄関前での演奏でした。



メンバーの大半は初心者ですが、地域のお祭りなどで十分な経験を積んでいるだけあって、観客を魅了する演奏でした。

キッズトライアル in 東近江 イメージキャラクター 「びわリス」を作成！



教育福祉学部子ども学科3年生 角田 悠華

ゼミ担当の先生を通じて、子ども向けイベントのシンボルマークを募集されてると聞き、軽い気持ちで取り組みました。ひたいに『B G U』、口と尻尾に『び』を描き、大学のカラー（青）を入れました。たくさんの子ども達に可愛がられて、子ども達もびわリスのほっぺのように夢や希望を持って、楽しみながら大きくなってほしいです。

もみじがさい

11月3日(月・祝)

第36回 紅葉賀祭

2025年11月3日(月・祝)、大学祭「紅葉賀祭」を開催いたしました。

今年のテーマは「笑顔満祭～まっすぐ届け 笑顔の花火～」天候にも恵まれ、大賑わいの1日となりました。

よしもとお笑いライブ



今年はスマイル・フルーツポンチ・もも・イチオク・本学卒業生のノーサインをゲストに「よしもとお笑いライブ」を開催しました。たくさんのお客様にお越しいただき会場は満員となりました。

模擬店＆有志発表



学生・同窓会による模擬店約20店舗が出店し、たくさんの人で賑わいを見せました。学生や同窓会からは「ホクホクでおいしい」焼きそば店やお好み焼き店やたい焼き店などの出店がありました。

学生が日々、コツコツと練習した成果を発表しました。「ダンス」・「カラオケ」・「バンド演奏」など各出演団体の持ち味がでており、観客をさらに盛り上げました。



わくわくフェスタ



子ども学科1・2年生の学生たちが楽しい遊びやアトラクションを準備し、地域の子供たちと一緒に遊びました。あたまたからだを使って遊ぶ「わくわくフェスタ」は子どもたちに大人気のイベントとなっています。

たのしくあそぼう



短期大学部 児童学コースの学生による幼児向けの体験型イベントを開催しました。4つの遊びを用意し、子どもたちを出迎えました。「マリオ」の世界観を再現し、子どもたちもマリオの世界に入り込んでいました。

チアリーディング



レイカーズとこども園あっぷるの園児たちと力を合わせてダイナミックな演技を披露しました。

打ち上げ花火



びわ学名物「打ち上げ花火」が大学祭のフィナーレを飾りました。晩秋の蒲生野の夜空を彩る連続花火は毎年感動します。

紅葉賀祭を終えて

「笑顔満祭～まっすぐ届け 笑顔の花火～」というテーマのもと、準備を進めてきた紅葉賀祭。当日は本当にたくさんの方にお越しいただき、会場のあちこちで花火のような笑顔があふれている様子を見ることができ、とても嬉しく思いました。支えてくださった先生方、ご協力くださった学生の皆さん、ご協賛していただいた方々、そしてご来場くださいましたすべての皆さんに、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

大学祭実行委員長
教育福祉学部 子ども学科 4年生
かじかあやみ
梶賀 彩心



客員教授 林 敏之氏による

特別講義

7月7日（月）、本学の客員教授である林敏之氏による特別講義が行われました。

林氏は同志社大学、神戸製鋼でラグビー部のキャプテンを歴任、日本代表の初代キャプテンを務められたラグビー界のレジェンド！当日のテーマは「楽苦美（ラグビー）～湧き上がるものを求めて～」

教育福祉学部1年生の学生を中心に、運動部所属の学生、教職員が話を聞きました。「感動からエネルギーが生まれる」「優しい人しか強くない」学びと教えの意味を問い合わせている学生たちに、感性や優しさの大切さについて熱く語っていただきました。日本を代表するラガーマンから、本学学生へのメッセージ。貴重な時間でした。林先生ありがとうございました。



PROFILE

林 敏之 (はやし としゆき)

1960年2月徳島県生まれ。
徳島県立城北高校→同志社大学
→神戸製鋼所→英国オックスフォード大学大学院
大学3年生からラグビー日本代表のフォワードとして活躍。強烈なタックルや突進で「壊し屋」の異名をとった。日本代表を13年間務め、代表キャップ38。世界選抜でもプレー。

36歳で引退するまで、フェアに激しくプレーした勇姿は多くのラグビーファンの胸を打った



11月3日(月・祝)保護者対象の 「進路・就職支援等に関する説明会」を開催

大学祭にあわせ、保護者の皆様を対象にした進路・就職支援等に関する説明会を開催いたしました。当日は学生の学年や県内外を問わず多くの方にご参加いただきました。

学長挨拶のあと、進路支援を担当するキャリア支援センター職員が早期化する昨今の就職活動の状況、本学で1年次から実施している支援プログラムや支援体制等について説明し、保護者の皆さんにも声掛けの大切さをお伝えしました。

1人でも多くの学生が納得いく進路を選択できるよう、全学でサポートしています。



大学食堂にて「近江牛フェア」を開催 (高級ランチが480円!)

昨年度から、滋賀県（農林水産部畜産課）より認定書付きA5ランクの近江牛をご提供いただき、大学食堂にて近江牛フェアを実施しました。柔らかくてとてもジューシーなお肉を使ったランチが、500円以内で食べられるとあって、10月に2回実施したステーキ丼、1月まで実施した近江牛焼肉定食は予定数がすぐに売り切れました。高級肉を食した学生からは、「めっちゃ美味しい！お肉が全然違う！」との声が多く聞かれ、いつもも増して賑やかな食堂の光景でした。

教育福祉学部

子ども学科

学科長(教授)

箱家 勝規

子ども学科における最も大きな行事のひとつが「わくわくフェスタ」です。この行事は、1、2年生が「子ども学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」の授業を通して学んできた成果を発表する場でもあります。今年度で17回目の開催を迎えることができました。数年前の新型コロナウイルスの流行時でも衛生面において徹底した対策を講じ、無事に開催することができました。「わくわくフェスタ」は、子ども学科の重要な行事であり、よき伝統として、今後も大切に継承してまいりたいと考えております。



さて、本学科では、今年度の新入生より、4つのコース(小学校教育・幼稚教育・学校保健・総合マネジメント)から選択できるようになりました。実際には、2年次への進級時にコースを選択することになりますが、これにより複数の免許取得がより容易になります。また、一般企業や公務員への就職を希望する学生のニーズに応じた授業も大幅に増加しております。新たに「ビジネスマネジメント論」「リーダーシップ論」「ファイナンシャル実務」などの授業が履修可能となりました。さらに、1年次から教育ボランティアに参加することができ、授業支援や課外活動の補助、幼稚園・保育所での行事補助など、現場での経験を積む機会が単位として認定されるようになりました。

今後も進化を続ける本学の子ども学科に、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



スポーツ教育学科

学科長(准教授)

高木 俊

スポーツ教育学科では、カリキュラムのリニューアルに伴い、実践的な学びが充実しました。新たに開講されたPBL(特別支援)という科目では、本学科の1年生が支援を必要とする子どもとそうでない子どもが共に活動する地域のクラブに参加し、子どもたちへの運動指導に挑戦しています。多様な子どもたちと体を動かす中で、理論に基づいた実践を体験するだけではなく、子どもたちへの接し方や特別支援のあり方についても学んでいます。これまでもスポーツ教育学科は1年次から地域に根ざした学びを展開してきましたが、特別支援領域の学びは限定的でした。初年次から幅広い実践的な学びを経験することで視野を広げ、今後の専門的な学びにつなげていきます。専門性の深化により、自身の強みを身につけられる点がスポーツ教育学科の特徴です。今後も発展し続けるスポーツ教育学科にご期待いただければ幸いです。



本年度は国スポ・障スポが滋賀県で開催され、本学科の多くの学生がボランティアとして参加しました。また、「ガチャフェス2025」に合わせて大学で開催された「キッズトライアル in 東近江」に、スポーツ教育学科も参画しました。系列校である滋賀学園高等学校アスリート躍進コースとの連携に加え、今後は地域の高等学校との連携も強化し、中学校の部活動指導のサポートにも学生が参加する予定です。新たな地域での活動を通じて、地域の皆様に本学科およびその学生をより愛していただけるよう努めてまいります。今後とも本学科の発展にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。



短期大学部

ライフデザイン学科

学科長(教授) 榎本 恵理



短期大学部では、今年度もフレッシュな新入生を迎え、地域に貢献できる人材輩出を目指し、教職員一同が学生のサポートに努めています。児童学コースや健康福祉コースでは、実習を数回体験し、現場でしか学べない多くの経験を積み、将来に繋げています。キャリアデザインコースでは、インターンシップ活動や学内で開催される企業説明会等で就職に向け励んでいます。オープンキャンパスでは多くの高校生に来ていただき、本学の良さをお伝えできました。今後ともご支援をよろしくお願ひいたします。

健康福祉コース

講師 山ノ井 勉



令和6年度介護福祉士国家試験では、全員が合格という結果を残すことができました。卒業生の頑張りを受けて、学生は、モチベーション高く学修しています。また、2年生は12月の「しがけあ」イベントに参加し、卒業生と連携しながら、動画発表や介護の普及活動を実施しました。写真は、卒業生から「しがけあプロジェクト」及び「しがけあアンバサダー」の説明を受けている写真です。1年生も長期実習に向けた学修に取り組んでいますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

児童学コース

准教授 榎本 祐子



児童学コースの2年生は、実習や就職活動に意欲的に取り組んでいます。今年は令和7年11月現在、すでに7名が公立園への採用を決めました。保育施設に限らず、放課後児童クラブなど児童学の学びを生かした多様な進路を選ぶ学生もいます。

1年生も大学生活にすっかり慣れ、学園祭での乳幼児向けイベントに向けて楽しみながら準備を進めています。児童学コースでは、学生一人ひとりの挑戦を全力で応援しています。

キャリアデザインコース

教授 長嶺 共全



キャリアデザインコースの2年生は、2月の企業体験と3月の学内合同企業説明会を経て、就職活動への取り組みが本格化し、4月からは大学の授業と就職活動を両立しています。写真は、2年生のゼミでの勉強の様子です。また、1年生の中には夏の就業体験に参加し、自らの将来について積極的に考えている学生もいます。

7月に実施された日本語ワープロ検定試験では多くの学生が受験していました。

研究 Report

研究活動報告

わかりやすい 母子健康手帳の発行



教育福祉学部
スポーツ教育学科
藤澤 和子 教授

母子健康手帳は、障がいや国籍に関係なく国内のすべての妊娠婦に配布され、利用されています。現在、外国人には母語に翻訳した手帳、視覚障がい者には点字の手帳が発行され、多様性への配慮も行われつつあります。しかし、知的障がい等により通常の手帳を読んだり理解したりすることが難しい妊娠婦への配慮は、未だ行われていません。

そこで、私は、科学研究費基盤研究Cの助成を受けて、知的障がいやその疑いのある妊娠婦等が、必要な出産育児の情報を得て、自らの意思で主体的に子どもを産み育てることを支援するために『わかりやすい母子健康手帳』を制作しました。育児経験のある知的障がいのある親と、支援経験のある保健師の意見を反映させて、通常の母子健康手帳をわかりやすく読みやすく書き直しました。

わかりやすい表現に工夫したところです。

A5版で80ページ、カラー仕様にして、全ページをわかりやすい言葉に直しました。特に難しい医療や保健の専門用語には説明を入れ、検査や予防接種のワクチンのわかりやすい説明ページを追加しました。文章は短くして、具体的な表現に書き直しました。読みやすいように、漢字にふりがなを振り、文は分かち書きにしました。子どもの成長が見てわかるように、多くのイラストをつけました。発達曲線のグラフには、測定値が数字で記入できる枠を設けました。見本を衛生都市の母子保健担当課に送ったところ、利用希望の自治体が予想以上に多く、外国人の妊娠婦にも使いたいという声があがっています。この研究を契機に、わかりやすい母子手帳の必要性が社会的に広く認識されて、通常の手帳と同じように自治体から配布され、利用されることを願っています。



テレビ取材の様子



作成された手帳の表紙

バスケットボールの動作解析 ～企業との共同研究～

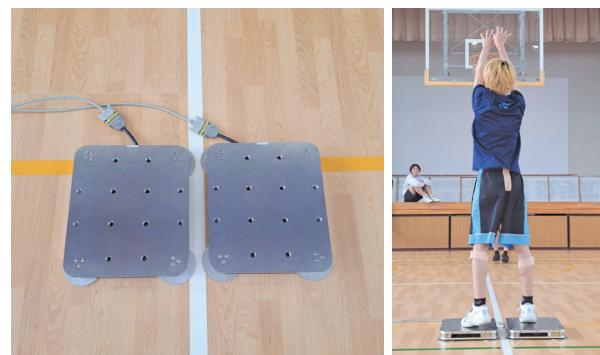


教育福祉学部
スポーツ教育学科
小野寺 恵介 講師

愛知県に本社を置く新東工業株式会社と共同で「高精度可搬式フォースプレート」を活用したバスケットボールの動作解析に取り組んでいます。

フォースプレートは、地面を押す力と回転させる力を高精度に同時計測できる装置で、同社の6軸力覚センサ技術を基盤とする測定は、短時間で信頼性の高いデータ取得を可能にしています。スポーツ現場で「正しく計測すること」はスポーツの上達に直結し、動作の“どこで・どれだけ”力が発揮されたかを可視化することで、フォームの改善やケガの予防に役立ちます。こうした実計測に、学生が測定設備や被験者として携わることで、最先端の研究活動に触れる貴重な機会となりました。

本研究の成果は、2025年に開催された「Sports Informatics and Technology(SIT), Sports Human Dynamics (SHD)」等の学会発表にて、フリースロー動作中の下肢関節のトルクの特徴を明らかにしました。現場で実施しやすい計測方法であり、左右差や試技間、技術差の違いまで捉えられる点が高く評価されています。



フォースプレートと体育館での実験の様子

本取り組みは、研究成果の発信を通じて大学の教育・研究力を高めるだけでなく、競技現場や地域スポーツの課題解決に還元されることで社会貢献にもつながります。今後は対象者と競技場面を広げ、国際学会での発表を含めて発展させていきたいと思います。新東工業の計測技術と本学の指導・研究を組み合わせ、スポーツの「見える化」をさらに前進させます。

2024年度(2025年3月卒) 就職状況と在学生の状況について

2024年度(2025年3月)の卒業者は、四大(教育福祉学部)110名(子ども学科89名、スポーツ教育学科21名)、短大(ライフデザイン学科)51名(児童学コース17名、健康福祉コース11名、キャリアデザインコース23名)でした。各学科、コース別の進路状況は下表のとおりです。

教育福祉学部 進路状況

	子ども	スポ教
こども園・幼稚園・保育所	27	0
公務員 (行政・警察官・消防等)	3	1
福祉施設	6	0
一般企業	27	15
教員(小・中・高・特支)	19	2
養護教員	4	0
進学	0	0
その他	3	3
卒業生	89	21

ライフデザイン学科 進路状況

	児童	健康	キャリア
こども園・幼稚園・保育所	10	0	0
公務員 (行政・警察官・消防等)	0	0	1
福祉施設	6	11	1
一般企業	1	0	15
進学	0	0	0
その他	0	0	6
卒業生	17	11	23

学生自身の努力と本学のキャリア教育や各種対策講座等により、一般企業をはじめ、教員・保育士や公務員等において本人の希望に応じた進路実現が達成できています。

就職率(就職希望者に対する決定者の割合)は四大99.1%、短大93.8%と高く、進路内定率(全卒業生に対する進路決定者の割合)も、四大96.4%、短大88.2%で、全国平均よりも4ポイント程度高い数値になっています。

本学は、教育・福祉関係への専門就職が多いのが特徴で、全体の53%を占め、その内訳は、幼稚園・保育所等に37名、小・中・高・特別支援学校に25名、福祉施設に24名となっています。

一般企業については、前年度に引き続き大学内で合同企業説明会を実施し、40社のブースにのべ143名(令和6年 32社 179名)の学生が参加するなど、熱心な就職活動により、全体の36%にあたる58名が企業就職しました。また、県庁・市役所・警察などの採用試験に5名が合格し、現在、公務員として活躍しています。

就職活動の早期化は年々進み、教員採用試験の日程も早まる状況にあり、学生一人ひとりが、納得と意欲を持って社会に飛び込んでいけるよう、低学年からの学習支援と個に応じたきめ細かな進路支援に一層力を注いでいきます。

キャリア支援センターについて

各種就職支援講座を開講し、履歴書・エントリーシートの添削、面接練習などのサポートを行っています。また、先輩の就職試験情報(筆記試験、面接の質問等)を収集・蓄積し、希望する学生の皆さんに提供しています。もちろん、学年にかかわらず、進路に関する相談をすることもできます。(1年生から利用できます。) 気軽な気持ちで利用してください。

びわ学合同企業説明会

3月上旬、大学内において「びわ学合同企業説明会」を実施しています。Webサイトではわからない企業の魅力、会社の雰囲気、担当者の人柄などを知り、直接、担当者に質問できることから、学生には満足度の高い説明会です。次回日程は3月6日(金)13時～です。(四大1～2年生も参加できます。)

大学の求人検索システム

大学のポータルサイト(Web就職)には、企業・福祉施設・こども園(幼稚園・保育所)等からの求人情報を掲載しています。マイページで年度を設定して、ぜひご利用ください。



ポータルサイト



令和6年度 学校法人滋賀学園事業報告

1 法人の概要

(A) 設置する学校・学科等の入学定員・

学生数の状況 (学校法人基礎調査抜粋)

(単位:人)

学校名	学部・学科等	入学定員	R6.5.1
びわこ学院大学	教育福祉学部子ども学科	80 3年次編入 10	277
	スポーツ教育学科	40 3年次編入 5	109
びわこ学院大学 短期大学部	ライフデザイン学科	80	108
滋賀学園 高等学校	普通科	200	496
	看護科・看護専攻科	40	32
びわこ学院大学 附属こども園あっぷる		80	69
	総計	535	1,091

(B) 役員・教職員の概要

1. 役員 (令和7年3月31日現在)

【理事長】森 美和子

【理事】沖田 行司 近藤 芳治 森 亘
竹内 寛 豊田 三郎 竹脇 義成

【監事】森谷 伊三男 清水 忠和

2. 教職員 (令和6年5月1日現在)

(単位:人)

		本部	大学	短大	高校	こども園	計
教員	本務	—	26	10	47	20	103
	兼務	—	36	12	6	0	54
職員	本務	4	14	6	2	0	26
	兼務	1	8	5	5	0	19

2 事業の概要

学校法人	令和6年度中の理事会・評議員会の開催状況	(1)理事会 定例2回 臨時2回 計4回 (2)評議員会 定例2回 臨時2回 計4回
びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部	実施事業	<p>大学・短大共通の共通項目 (重点項目) 1～3, (具体的な施策) 1～15</p> <p><重点項目></p> <ol style="list-style-type: none">1. 教学マネジメント体制の充実2. 研究制度の充実3. グローバル化の推進・魅力ある大学づくり <p><具体的な施策></p> <ol style="list-style-type: none">1. 学生の受入れ<ol style="list-style-type: none">①大学のカリキュラム改革による魅力の訴求②教育学分野以外の志望層へのアプローチ強化 (マーケット拡大)③県外生の獲得の強化 (エリア拡大)④オープンキャンパスの質向上⑤SNSによる広報強化⑥交通広告の活用⑦学長や教員の活動を通した広報と認知度向上⑧学生の満足度向上への提案⑨入学者選抜の実施方針、入試内容の検証及び見直し⑩奨学金制度充実2. 学修支援<ol style="list-style-type: none">①教員・職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備②SA(Student Assistant)の活用による学修支援の充実化③大学全体としての学外実習体制確立3. キャリア支援<ol style="list-style-type: none">①「びわ学キャリア塾」の成果の検証および修正②教員採用試験・公立幼稚園採用試験に向けての指導体制充実③一般就職支援一企業の学内説明会④地元企業との協定及び連携4. 学生サービス<ol style="list-style-type: none">①学修支援のニーズ把握、総体的な支援策整備②高等教育の学修支援新制度の対応体制の強化③オフィスアワーの強化、学生との読書会、研究会の組織化5. 学修環境の整備<ol style="list-style-type: none">①学修環境の整備②広報誌の発行等PR活動による図書館の利用度アップ③購入希望調査の実施等、利用者ニーズの把握に基づく資料収集④ラーニング・コモンズの有効活用⑤資料の電子化による所蔵スペースの確保⑥研究紀要等、研究誌の発行による研究業績の公開⑦施設・設備の利便性向上 <p>6. 学生の意見・要望への対応</p> <ol style="list-style-type: none">①在学生の学生生活実態調査および満足度調査②学長と学生との懇談会③卒業生アンケート調査 (SNS 対応)④学生相談室、カウンセラーアセスメントによる学生相談体制の充実⑤学長専用メールアドレスの周知 <p>7. 単位認定、卒業認定、修了認定</p> <ol style="list-style-type: none">①教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの整備②ディプロマ・ポリシーを踏まえた各種制度などの見直しの検討 <p>8. 教育課程及び教授方法</p> <ol style="list-style-type: none">①カリキュラム・ポリシーの策定と周知②カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成③アクティブラーニングの実施状況の点検と高い実施率の維持 <p>9. 学修成果の点検・評価</p> <ol style="list-style-type: none">①アセスメントポリシー (プラン) に関する学内方針の検討②学修状況の把握・分析、フィードバック <p>10. 職員の研修</p> <ol style="list-style-type: none">①SD(Staff Development)への取組み推進②IRer資格取得の推進③修学特別支援や人権意識の知識力や対応力向上 <p>11. 研究支援</p> <ol style="list-style-type: none">①研究環境の整備と支援体制の確立②科研費等、外部資金獲得増進③研究者倫理の向上と不正防止 <p>12. 地域・産学連携</p> <ol style="list-style-type: none">①地域貢献活動 (地域出前授業ユカレッジ) の充実・発展②大学地域課題解決支援事業等、内容が豊富な地域教育実践活動記録集の発行③包括的連携協定の締結と産学連携の強化 <p>13. 地域・産学連携</p> <ol style="list-style-type: none">①サマーセッションの実施②留学生入学の体制強化③教職員・学生の国際交流活動の推進 <p>14. 内部質保証のための自己点検・評価</p> <ol style="list-style-type: none">①アンケート調査等を教育活動等の改善に反映させる仕組みの構築②IR(Institutional Research)機能の整備③PDCAサイクル確立及びその機能性の向上 <p>15. 補助金獲得の強化</p> <ol style="list-style-type: none">①私立大学等改革総合支援事業等の補助金獲得に向けた検討

上記情報は事業報告書から一部を抜粋したものです。学校法人滋賀学園のホームページ (<https://shigagakuen.net/>) <情報公開>にある、事業報告書・財務情報のファイルにおいて、事業概要・財務情報等の詳細を確認頂けます。

3 令和6年度決算の概要

①事業活動収支計算書

■教育活動収支			
科 目	予 算	決 算	差 異
事業活動収入の部			
学生生徒等納付金	878,882	910,529	△ 31,647
手数料	23,136	24,123	△ 987
寄付金	27,220	2,720	24,500
経常費等補助金	409,633	418,535	△ 8,902
付随事業収入	17,603	17,659	△ 56
雑収入	75,963	54,632	21,331
教育活動収入計	1,432,437	1,428,198	4,239
事業活動支出の部			
人件費	939,049	935,654	3,395
教育研究経費	454,466	465,997	△ 11,531
管理経費	245,218	236,214	9,004
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	1,638,733	1,637,866	867
教育活動収支差額	△ 206,296	△ 209,668	△ 3,372

■教育活動外収支			
科 目	予 算	決 算	差 異
事業活動収入の部			
受取利息・配当金	183	248	△ 65
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	183	248	△ 65
事業活動支出の部			
借入金等利息	1,820	2,037	△ 217
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	1,820	2,037	△ 217
教育活動外収支差額	△ 1,637	△ 1,790	153
経常収支差額	△ 207,933	△ 211,458	3,525

■特別収支

科 目	予 算	決 算	差 異
事業活動収入の部			
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	17,500	31,843	△ 14,343
特別収入計	17,500	31,843	△ 14,343
事業活動支出の部			
資産処分差額	0	206	△ 206
その他の特別支出	0	13	△ 13
特別支出計	0	220	△ 220
特別収支差額	17,500	31,623	△ 14,123
[予備費]			
	(30,000)		
	0	0	0
基本金組入前当年度収支差額	△ 190,433	△ 179,835	△ 10,598
基本金組入額合計	△ 73,249	△ 82,486	9,237
当年度収支差額	△ 263,682	△ 262,321	△ 1,361
前年度繰越収支差額	△ 3,432,897	△ 3,432,897	0
翌年度繰越収支差額	△ 3,696,579	△ 3,695,218	△ 1,361
(参考)			
事業活動収入計	1,450,120	1,460,288	△ 10,168
事業活動支出計	1,640,553	1,640,123	430

事業活動収支計算書は、収支を経常的なもの（「教育活動」と「教育活動外」）と臨時的なもの（「特別収支」）に区分するものとし、経常的・臨時的それぞれの収支状況を把握することができるようになっています。また、毎期の収支バランスを見るのに適した基本金組入前の収支差額も計算書上に表示することになっています。

教育活動収支は、経常的な事業活動収支のうち、本業である教育活動の収支です。教育活動収入は1,428,198千円で、予算比4,239千円の減となり、教育活動支出は予算比867千円減の1,637,866千円となりましたので、教育活動収支差額209,668千円の支出超過となりました。

教育活動外収支は、経常的な財務活動に係る事業収入及び事業活動支出をいいます。教育活動外収入は受取利息・配当金のみで248千円となり、教育活動外支出は借入金利息のみで2,037千円となりましたので、教育活動外収支差額は1,790千円の支出超過となりました。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額の合計を経常収支差額といい、211,458千円の支出超過でした。

特別収支とは、臨時的な事業活動収入及び事業活動支出をいいます。特別収入は、31,843千円となり、特別支出は、220千円でしたので、特別収支差額は31,623千円の収入超過となりました。

以上の結果、基本金組入前当年度収支差額はマイナス179,835千円となり、事業活動収支差額比率はマイナス12.3%となりました。

②資金収支計算書

■収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入			
878,882	910,529	△ 31,647	
手数料収入	23,136	24,123	△ 987
寄付金収入	31,253	7,277	23,976
補助金収入	423,100	432,002	△ 8,902
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	17,603	17,659	△ 56
受取利息・配当金収入	183	248	△ 65
雑収入	75,963	54,188	21,775
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	146,350	139,440	6,910
その他の収入	827,892	856,840	△ 28,948
資金収入調整勘定	△ 248,162	△ 226,746	△ 21,416
前年度繰越支払資金	666,574	666,574	0
収入の部合計	2,842,774	2,882,134	△ 39,360

■支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	981,907	932,926	48,981
教育研究経費支出	329,572	333,806	△ 4,234
管理経費支出	214,800	213,095	1,705
借入金等利息支出	1,820	2,037	△ 217
借入金等返済支出	29,142	29,142	0
施設関係支出	14,350	14,349	1
設備関係支出	33,140	42,293	△ 9,153
資産運用支出	0	0	0
その他の支出	859,155	889,167	△ 30,012
[予備費]	(30,000)		
	0	0	0
資金支出調整勘定	△ 123,429	△ 66,979	△ 56,450
翌年度繰越支払資金	502,317	492,297	10,019
支出の部合計	2,842,774	2,882,134	△ 39,360

資金収支計算書とは、当該会計年度の諸活動に対する全ての収入・支出内容を明らかにし、かつ支払資金（現金及びいつでも引き出すことができる預貯金）の収入・支出の顛末を明らかにするものです。

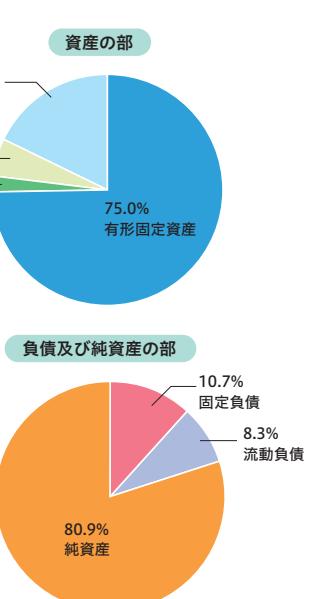
令和6年度の資金収入は合計2,882,134千円となり予算比39,360千円の増となりました。資金支出は、当該年度の教育研究活動およびその他活動に対する支出であり、借入金返済支出や施設設備関係支出などを含んでいます。今年度は、翌年度繰越支払資金が予算比10,019千円減の492,297千円となりました。

③貸借対照表

■資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産			
有形固定資産	2,678,818	2,776,601	△ 97,784
有形固定資産	2,437,097	2,533,407	△ 96,310
特定資産	70,000	70,000	0
その他の固定資産	171,721	173,194	△ 1,473
流動資産	570,607	737,674	△ 167,067
資産の部合計	3,249,424	3,514,275	△ 264,851

■負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	349,284	416,314	△ 67,030
流動負債	270,356	288,341	△ 17,986
負債の部合計	619,640	704,655	△ 85,016

■純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	6,325,002	6,242,516	82,486
第1号基本金	6,224,002	6,141,516	82,486
第4号基本金	101,000	101,000	0
繰越収支差額	△ 3,695,218	△ 3,432,897	△ 262,321
翌年度繰越収支差額	△ 3,695,218	△ 3,432,897	△ 262,321
純資産の部合計	2,629,785	2,809,620	△ 179,835
負債及び純資産の部合計	3,249,424	3,514,275	△ 264,851



貸借対照表は、年度末における財政状態の健全性と学校運営に必要な資産の保有状況や負債状況について表したもので、資産は学校法人に投下された資金がどのように使われているかを表しており、負債及び自己資金は資産が他人の資金（負債）によって貯われているか、自己資金によって貯われているかを示しています。

令和6年度末の総資産は3,249,424千円であり、前年度末に比べ264,851千円減少しました。その主な要因は建物・教育研究用機器備品等の減価償却によるものと現金預金の減少によるものです。その結果、有形固定資産の構成比率は75.0%、流動資産の構成比率は17.6%となりました。一方、負債の部合計は619,640千円で、前年度末より85,016千円減少しました。その主な要因は長期借入金と未払金の減少によるものです。

資産の部合計から負債の部合計を差し引いた純資産（正味財産）は2,629,785千円となり、前年度に比べ179,835千円の減少となりました。

基本金は82,486千円を組入した結果、6,325,002千円となりました。

滋賀県と包括連携協定を締結

2025年7月10日(木)、滋賀県と本学は、教育・福祉人材の育成をはじめ、多様化する地域課題に適切に対応し、より幅広い分野での連携を図って滋賀県の発展に寄与するため、包括連携協定を締結しました。

連携・協力事項

滋賀県と本学は、次の事項について、連携・協力のもと、具体的な事業に協働で取り組んでいます。

- (1) 人材育成のこと
- (2) 教育の振興のこと
- (3) 滋賀県の活性化・若者の定着のこと
- (4) スポーツ振興、健康・福祉の増進のこと
- (5) その他両者が協議して必要と認められる事項

教育・福祉・保育人材の育成や、国スポ・障スポ参加(p1~2)、しがケアプロジェクト(p9)の他にも、以下のような取り組みを進めています。



締結式 沖田学長(左)と三日月知事



絵本の読み聞かせの様子(写真はイメージ)

(2) 教育の振興のこと

- ・図書館を通じた教育・研究活動の展開
- 【滋賀県立図書館との有機的な連携】

滋賀県立図書館は児童書を全点購入されている日本でも珍しい図書館です。そんな県立図書館は、すべての子どもが身近な学校や家庭・地域の人々の関わりによって本に親しみ、より豊かな人生を送ることのできる[しが子どもとよかん]の実現を目指しておられます。

保育士を目指す学生が県立図書館で資料を借りることはもちろん、1月～3月には県立図書館に出向いて絵本の読み聞かせを実施する予定です。



ベジチェックの様子

(4) スポーツ振興、健康・福祉の増進のこと

- ・子どもから高齢者に至るまでの健康づくりの増進と普及啓発 【若者への食育推進事業】

滋賀県では、健康に対する意識や実践度が、他の年代よりも低い若い世代に対する取り組みを進めておられます。県の健康しがの取り組みの中に「栄養・食生活の見直し」という項目があり、協定を契機に、以下2点の連携した取り組みを実施しました。

- ・滋賀県立大学で活動する食育隊の学生との学び合い(養護教諭志望の2年生対象)
- ・スポーツ教育学科学生(3年生)の食育推進活動(ベジチェック)

❶ 協定校からの留学生紹介

2025年10月、本学に新しく留学生が入学しました。前年に本学と協定を締結した中国の大連楓葉職業技術学院(遼寧省)からの3年次編入学生で、教育福祉学部子ども学科に所属しています。本学で学ぶ冯珈妮(フウ カニ)さんに話を聞きました。(インタビューは11月下旬に実施)

自己紹介、留学のきっかけ

大連楓葉職業技術学院から来ました冯珈妮(フウ カニ)です。大連楓葉職業技術学院は3年制の短期大学で、私は2年間、看護の勉強をしていました。

両親の勧めもあり以前から留学を希望していました。その中でも環境が美しく、安全面が魅力で日本に行きたいと思っており、憧れの気持ちもありました。

昨年11月に学長先生が大連に来られ、びわこ学院大学の説明を聞き、さらに日本への思いが強くなり、本格的に日本語の勉強をするようになりました。

大連の学校の同級生は3年生で病院実習に出かけますが、家族や学校の先生とも相談し、留学するのは今が最適だと判断しました。同時期に日本の別の学校に入学する友人もいます。

通っていた大連の学校は、日本以外の海外大学とも協定があり、留学先の候補には韓国の大学などもありましたが、安心・安全な環境で1人暮らしをするなら日本だと思い、家族とも相談の上、びわこ学院大学を選びました。

大連の協定校からの入学は私が第1号です。



日本での生活と今後について

来日し約1ヶ月が過ぎました。はじめは不安もありましたが、先生、学生、職員の方は皆さんとても親切で温かく、外国で勉強しているという不安を感じさせません。

この1ヶ月の生活で特に困ったこともなく、元気に生活しています。

まだ、翻訳アプリは欠かせませんが、まずは日本語をしっかりと勉強して、友達と問題なく話せるようになることが目標です。教育福祉学部での学びは看護とは異なりますが、教育・福祉に関する知識を身につけ、将来は日本で働きたいと思っています。まだまだわからないことばかりですが、色々と教えて頂ければ嬉しいです。皆さんどうぞよろしくお願いします。



学生同士の交流の様子

❷ 出前授業のお知らせ ~ 大学の持つ知的財産を地域に還元 ~

本学独自の地域貢献事業として、「プレカレッジ」「ユーカレッジ」を実施しています。

プレカレッジ(中学生・高校生対象)

中学・高校生の方に大学での学びを体験していただく機会として、また、本学教員の専門性を活かした地域貢献として実施しています。

◆ 開講分野

- 教育 (全般) (小学校系) (幼児教育・保育系)
(養護教諭系) (スポーツ系) (特別支援系)
- 福祉 (全般) (介護系) • 情報 • その他

担当 入学センター

TEL 0748-35-0006 (直通) メール cl-admin@newton.ac.jp
大学等の地域連携に係る活動等についてのご意見も上記で募集しております。

「プレカレッジ」「ユーカレッジ」のメニュー等
詳細は右記QRコードからご確認ください。



ユーカレッジ(一般の方対象)

本学教員が学外に出向いて講義を実施する地域出前授業のことです。自治体等の公的機関、市民団体、企業、NPO等の研修でご活用ください。

◆ 開講分野

- A : 教育・子育て B : スポーツ C : 人権・福祉
- D : 芸術・音楽 E : 文化・歴史 F : 情報技術・科学
- G : 健康・ライフスタイル H : 環境・防災
- I : 政治・経済・ビジネス J : その他

◆ 授業概要

時 間 : 60 ~ 90 分
開催日 : 原則、土曜・日曜・祝日を除く平日

担当 地域・産学連携研究支援課

TEL 0748-35-0005 (直通) メール ex-link@newton.ac.jp
大学等の地域連携に係る活動等についてのご意見も上記で募集しております。

表紙写真

みやぎ ひより
宮城 日和
教育福祉学部 子ども学科 1年生
(沖縄県)小禄高校卒

大学広報誌「紫野」17号

令和8(2026)年1月発行(年1回)

発行 : 〒527-8533 滋賀県東近江市布施町29

びわこ学院大学 経営戦略IR推進室

ホームページURL <https://www.biwakogakuin.ac.jp/>

E-mail biwako@newton.ac.jp



大学公式
Instagram



大学公式
LINE



OPEN CAMPUS

3/22 SUN
10:00-14:00

学科コース説明
体験授業
キャンパスツアー
2027 入試説明
学食無料体験 他



小さな大学で 大きく学ぶ

びわこ学院大学

びわこ学院大学短期大学部

〒527-8533 滋賀県東近江市布施町29 TEL. 0748-22-3388 (代表)